



支部だより

日政連栃木会
宇都宮支部

第17号

栃木県知事
栃木県行政書士会名誉会長
福田 富一

日本行政書士政治連盟栃木会宇都宮支部の皆様、あけましておめでとございます。

私は、知事就任以来、誰もが豊かさを実感できる「とちぎ」を創り上げるため、対話と協調による県民中心、市町村重視の県政を基本として、各種施策を積極的に推進して参りました。

昨年は、厳しい財政状況の中、自律的な行財政基盤の確立に向けた「とちぎ未来開拓プログラム」の実質的な初年度として、その着実な実行を図りながら、当面の最重要課題である「経済・雇用対策」に全庁を挙げて取り組んで参りました。また、最終年度となる栃木県総合計画「とちぎ元気プラン」に掲げた目標の達成に向け、こども医療費助成対象の拡大、保育所の整備促進など子育てしやすい環境づくりや、1月に導入した「ドクターヘリ」の効果的な活用、医師確保対策の充実など地域医療体制の強化を通じ、「安心な地域社会の実現」に努めたほか、「とちぎ環境立県戦略」に基づくレジ袋削減運動の展開など「地球と人にやさしい」「エコとちぎ」づくりや、多彩な地域資源を活かした「とちぎ食の回廊づくり」の推進など「ブランドに着目した誇り輝く」とちぎ「づくり」等に全力を傾注してきたところであります。

一方、少子高齢化の進行と人口減少の本格化、経済のグローバル化や高度情報化の進展、さらには、地球環境問題の深刻化など、私たちは今、時代の大きな変化のただ中にいます。加えて、円高の進行など経済情勢の急激な変動や地方分権改革をめぐる動きなど、県政を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。

県では、こうした時代の潮流や社会経済情勢の変化に的確かつ柔軟に対応しながら、目指すべき将来像を実現するため、現在、新しい5か年間計画である栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン（仮称）」の策定を進めており、本年は、このプランのもと、新たなスタートをきることにあります。新しいプランでは、「とちぎ元気プラン」の成果を継承するとともに、限られた行財

政資源を有効に活用するため、選択と集中による施策の重点化を図り、政策の基本に「人づくり」を据えながら、「暮らしを支える安心戦略」「明日を拓く成長戦略」「未来につながる環境戦略」の3つの重点戦略を展開して参ります。そして、多様な主体による協働をさらに前進させる「地域をともに創る」という考え方に立ち、県民の皆様と手を携え、「人の元気」や「産業の元気」、「元気な自然」や「元気な地域」にあふれる、「安心成長環境をともにつくる、元気度 日本一 栃木県」を目指して参ります。

平成23年は、北関東自動車道がよいよ全線開通を迎える年でもあります。近隣県となお一層連携・協力しながら、真の「有名人の県」に向け、私自らも、本県の多彩な魅力を県の内外に積極的に発信して参りますので、日本行政書士政治連盟栃木会宇都宮支部の皆様の一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

前参議院議員
弁護士・行政書士
築 瀬 進

宇都宮支部の皆様、新年おめでとうございます。昨年は、さまざまなご支援を頂き、本当にありがとうございました。前半は参議院の予算委員長として、政権交代後をはじめの年度当初予算の早期可決に全力を尽くしました。そして、7月の3期目の選挙では落選。3期目はどうも自分にとって鬼門のようです。

かたをしてきました。しかし、先日読んだ城山三郎さんの著書では、初心の意味を、「自分に安住せず、自分と言うものを無にして、人から受信し、吸収しようとする生き方です。」と書いておられました。なるほど、初心とは「日々新たななり」ということなんだなと感じました。まことに含蓄に富んだ言葉だと思えます。

さて、国会日程におしまくられてきた環境から解放され、今までおろそかにしてきたことを改めて始めています。そのひとつが、慶応大学の藤沢湘南キャンパスでの聴講です。月曜日、恒例のマンデーレポートを終えて、ただちに湘南新宿ライン9時39分に飛び乗ります。新宿で小田急線に乗り換えて湘南台で下車、そこで慶応大学行きのバスに乗り、12時30分前後に湘南キャンパスに到着、そしてk(カツパ)校舎で午後1時から行われるソーシヤル・イノベーション講座に出席します。

お目当ては、湘南キャンパスの看板教授、金子郁容先生。彼は、鳩山由紀夫さんと同窓のスタンフォード大学出身。鳩山政権下で「新しい公共」円卓会議の座長を務めました。日本全国で、いままでの発想にとらわれないさまざまな形態の市民活動の領域が広がっています。株式会社姿の姿だったり、NPOだったり、未組織のご近所パワダつたり、相互信頼のネットワークが、行政や政治の限界を乗り越えようとしています。そんな実例を、金子先生の講座から存分に吸収させていただいています。(講義のメモはhpに逐次掲載しています。ご覧ください。)

しっかり受信し、吸収した上で、やがて発信に転じて行きたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願ひします。

宇都宮市議会議員
郷 間 康 久

支部会員の皆さまにおかれましては、卯年にふさわしい跳躍の新年を迎えられ、益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。さて、私の議員としての任期(二期目)も残すところ二ヶ月余となりました。支部の皆さまには、議員活動のみならず本会および支部の理事としても、公私両面から何

かとお力添えを賜り誠にありがとうございました。この四年間、私は唯ただ無我夢中の毎日でした。政党に属しない非力な立場であり、他の議員のようなオーラやしたたかさを持ちあわせておらず、真つ直ぐ進むことしかできない不器用な性格のため、壁にぶつかっては転び、転んでは起き上がる、まさに七転八起(時に「八倒」)の連続だったように感じます。

しかし、裏を返せば、これこそが私本来の政治スタイルであり、旧態依然の馴れ合いや寄り合いの政治に楔(くさび)を打つために議員となった以上、ある程度の苦難は付き物と割り切るしかありません。物事の本質にこだわればこだわるほど波風が立つのは世の常人の常というものですから。

一方で、私は書士議員として本会議や各種委員会の場で書士会に関わる質問を幾度となくしてきました。その成果はまだまだ十分とは言えませんが、少なからず皆さまのお役に立てたことをうれしく思います。

そんな私の議員生活もまもなく一つの節目を迎えます。私の胸には、皆さんと同じコスモスの誇りある徽章が輝き、その下にはまるで借りてきたかのように議員章が並んで貼り付いています。この春、その数が一つ減るか否かは全く予想がつきません。

今はとにかく全力を尽くして「戦績一勝一敗」から勝ち越しを遂げ、再び議員として愛する宇都宮とお世話になった皆さまにご恩返しを重ねるべく頑張る所存です。大変お騒がせをする春になるとなりますが、何卒ご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げ新春のご挨拶とさせていただきます。

《編集後記》
支部所属の議員連盟の諸先生方と会員との交流を図るこの支部だよりも、第17号を発行することが出来ました。公務多忙の中、玉稿を賜りました先生方には厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。会員の皆様のご意見・ご要望等は宇都宮支部宛にお寄せ下さい。

